



Press Release

平成20年3月7日
中部電力株式会社

六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムの 利用計画(平成20年度)について

当社は、日本原燃株式会社六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウム⁽¹⁾について、その利用計画を明確にし、透明性を確保する観点から、毎年度、回収に先立ち利用計画をお知らせすること⁽²⁾としております。

平成20年度分の利用計画について、別紙のとおりお知らせします。

- (1) 六ヶ所再処理工場は、平成18年3月から使用済燃料を使用したアクティブ試験を実施しており、同試験の実施に伴いプルトニウムが回収されております。
- (2) プルトニウムの利用計画については、「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方について」(平成15年8月5日原子力委員会決定)において、電気事業者が公表することとなっております。

別紙 六ヶ所再処理工場回収プルトニウム利用計画(平成20年度)

(ご参考)

本日、電気事業連合会が六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムの全電力会社の利用計画を発表しています。

参考資料 六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムの利用計画について
(平成20年3月7日電気事業連合会)

以 上

<お問い合わせ先> 広報部 報道グループ (052) 961-3582

六ヶ所再処理工場回収プルトニウム利用計画（平成20年度）

平成20年度に六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウム（１）の利用計画は以下のとおりです。

	再処理予定量 （トン）	所有量（２）（トン） （核分裂性プルトニウム量）（３）			利用目的（軽水炉燃料として利用）		
		19年度末 保有量（４）	20年度 回収量	20年度末 保有量（５）	利用場所（６）	年間利用目安量（７） （トン/年） （核分裂性プルトニウム量）	利用開始時期（８） 利用に要する期間の目途（９）
中部電力 株式会社	20年度						
	7.4	0.1	0.1	0.3	浜岡原子力 発電所4号機	0.4	平成24年度以降 約0.7年相当

1 当社は、海外の再処理工場で回収されたプルトニウムを、平成19年12月末現在、フランスに約2.6トン（核分裂性プルトニウム量で約1.7トン）、イギリスに約0.9トン（核分裂性プルトニウム量で約0.6トン）、合計約3.5トン（核分裂性プルトニウム量で約2.3トン）保有しています。海外で保有しているプルトニウムは、原則として海外でMOX燃料に加工して利用することとしており、フランスのメロックス工場でMOX燃料48体を加工し、2010年度から浜岡原子力発電所4号機で利用していく計画を平成20年3月4日に公表しています。

2 「所有量」には平成19年度末までの核分裂性プルトニウム保有量、平成20年度に六ヶ所再処理工場で回収される核分裂性プルトニウム量及び、その合計値である平成20年度末までの核分裂性プルトニウム保有量を記載しています。なお、回収されたプルトニウムは、各電気事業者が六ヶ所再処理工場に搬入した使用済燃料に含まれる核分裂性プルトニウムの量に応じて、各電気事業者に割り当てられることとなっています。

3 ここで扱う核分裂性プルトニウムは、プルトニウム239、プルトニウム241をさします。

4 日本原燃株式会社が平成19年9月18日に公表した「2007年度使用済燃料の受入れ計画の変更について」および、平成20年2月25日に公表した「再処理施設の工事計画に係る変更の届出等について」において、平成19年度の使用済燃料の再処理予定量に変更されたため、この変更を反映した数値を記載しています。このため、平成19年2月23日に公表した「六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウム利用計画（平成19年度）について」における数値とは相違しています。

5 「20年度末保有量」は、「19年度末保有量」に「20年度回収量」を加えたものですが、小数点第2位を四捨五入しているため合計が合っておりません。

6 「利用場所」については、浜岡原子力発電所4号機による利用の他、電源開発株式会社あるいは日本原子力研究開発機構に譲渡する場合があります。

7 「年間利用目安量」は、浜岡原子力発電所4号機で、1年あたりに利用するMOX燃料に含まれる核分裂性プルトニウムの量です。

8 「利用開始時期」は、六ヶ所MOX燃料加工工場の竣工予定時期の平成24年度以降としています。

9 「利用に要する期間の目途」は、「20年度末保有量」を「年間利用目安量」で除した年数を表すことによって、利用期間としての年数を示しています。